2025年10月19日開催
DREAM AS ONE.×みんなでチャレンジアカデミーSPECIAL FES.

大井ふ頭中央海浜公園スポーツの森陸上競技場　参加者８１３名：子ども377名：保護者456名

昨年に引き続き、今年も大井ふ頭中央海浜公園スポーツの森陸上競技場での開催となりました。当日のお天気は小雨の心配もありましたが、受付が始まると参加証を手に親子が続々と来場。司会進行はTBS高柳光希アナウンサーとスポーツイベントMCには今や欠かせない宇佐美菜穂さん。お2人の元気な司会で開会式がスタートしました。そして、アスリート達が登場し、アスリート全員で準備運動開始です。さすが世界で戦うトップアスリートの皆さん、身体が驚くほどしなやかでビックリです！

続いて、為末さんの号令による親子ペアで頭を使いながら体を動かす「ドラミちゃん遊び」。親子の笑いが競技場いっぱいこだまするほど楽しい頭の体操遊びです。程よく体がほぐれた後は、いよいよ、各種体験開始です。アスリート達が指導する7種の競技を各自思い思いに体験します。

かけっこ指導は、リオ五輪男子100m×４リレー銀メダリストの飯塚翔太選手。笑顔爽やかな飯塚選手の誰にでもわかりやすい優しい指導はまさにメダリスト級なのです。走るときの重心はどこを意識するか？そうした、ちょっとしたコツを学ぶことで子ども達の走りにパワーがみなぎるようです。体験後、子ども達は受付の際配られた参加者パスポートにスタンプを押して感想を記入します。

走り幅跳び指導は、キングオブ陸上と称される陸上十種競技日本選手権で今年見事に優勝を果たした右代啓欣選手と日本でただ１人唯一無二の両足義足の陸上選手である湯口英理菜選手によるペアティーチング。走り幅跳び実演では、両選手のダイナミックな跳躍に歓声が上がりました。

今回プログラムに初登場の棒高跳び体験。実物を見る機会の少ない本格的な棒高跳びのセットに子ども達ばかりでなくパパママの目を見張ります。棒高跳び初めての体験とアスリートが魅せる棒高跳びの実演に子どもも大人も大興奮でした。

毎回大人気の車いすラグビー体験。パリパラ五輪で見事金メダルを獲得した選手達による豪華な指導。ルールを学び、体験後は５対５のチームに分け実践。ゲーム対戦はひときわ盛り上がります。また、車いすラグビーの醍醐味であるラグ車タックルは迫力満点で子ども達の歓声が沸き起こります。

義足体験指導は、日本の義足短距離選手第一人者で昨年８月に選手を引退した佐藤圭太選手。佐藤選手の中学３年生の時に骨肉腫で足を切断したお話に皆さん真剣なまなざしで耳を傾けていました。義足体験を通して、障がい者スポーツへ理解を深めるきっかけとなったことでしょう。

やり投げ指導は数々の世界競技大会に出場経験豊富なディーン元気選手。やり投げ体験はやりを投げるのではなく、フカフカ素材のジャベリックボールを使い、正しい投げ方の指導を受けます。その後、ターゲットボードめがけてコントロールと正しいフォームを習得します。

パリ五輪や世界大会での活躍で今や日本のお家芸と言っても過言ではない、子ども達の関心急増中のフェンシング競技。指導は日本フェンシング協会と現役選手を含めた６名の皆さん。子ども達はフェンシング初心者向けに開発されたスマートフェンシングプログラムによるフェンシング挑戦。

今年からプログラムに追加された「さわってみよう！本物体験」エリアでは、実際に競技大会で使用される本物のやり投げの「やり」、砲丸投げの「玉」、スターティングブロック等を指導時間に関係なく誰もが体験できます。大人も子どもも本物の意外な重さや高さ等に驚きました。

為末さんの軽妙な進行によるトークセッションには、東京世界陸上男子 110m ハードル走で惜しくもメダルを逃しましたが注目度 No.1 の村竹ラシッド選手と陸上女子中距離走エースの田中希実選手、車いすラグビーの今井友明選手が登場。毎度のことながら子ども達からの刺さる質問はスポーツ記者顔負けです。

イベント後半の交流ゲームは、子ども達が赤、青、緑、ピンク、黄、オレンジの６チームに分かれて、シッティング玉入れとユニバーサルリレーで競います。抽選箱に入ったくじを６人のアスリートが順番に引き、色別チームリーダーが決まります。アスリート達も童心に返りながらも真剣勝負です。

ユニバーサルリレーは２回戦勝負。トラック１周４００ｍを７区分に分けて車いす、二人三脚、かけっこの順にバトンを繋ぎます。普段とは違う学校の子ども達、学齢の違う子ども達が即席チームメートとなって大声援を背に各自懸命に頑張ります。

２回戦行われるユニバーサルリレー。いずれもアンカーはアスリートリーダーの出番です。リレー1 回戦目のアンカーとしてトップでテープをきったのはディーン元気選手。トップから差を大きく広げられた村竹ラシッドチームでしたが、チームリーダーのラシッド選手が風を切る本気の激走。その速さに驚きと歓声が沸き起こりました。

リレー２回戦目のアンカーは車いす。ダントツ１位で子ども達からのタスキを受けた村竹ラシッド選手でしたが、車いす操作に不慣れなアンカーラシッド選手が後続に次々と抜かれる展開に。そして、ここぞばかり今井選手が本領を発揮し、他者を猛追でかわしトップでゴールというまさかの結末。子どもの達の大声援を受けて必死の表情で車いすを漕ぐアスリート達でした。

交流ゲーム優勝はディーン選手と今井選手の橙チームでした。　優勝トロフィーを手に子ども達よりも大喜びのディーン選手、今井選手に橙チームの子ども達も笑顔いっぱいの表彰式でした。

DREAM AS ONE みんなでチャレンジアカデミーSPECIAL FES は、今年も親子の笑顔にあふれた１日となりました。大会アンバサダーの為末大さん、指導いただきました右代啓欣選手、飯塚翔太選手、ディーン元気選手、田中希実選手、村竹ラシッド選手選手、湯口英理菜選手、佐藤圭太選手、今井友明選手、小川仁士選手、羽賀理之選手、澤慎吾選手、豊田翼選手、豊田雄伍選手、運営をお手伝いいただきました日本大学陸上競技部皆さん、青陵高校陸上部の皆さん、そして、ご参加いただきました参加者の皆さん、ありがとうございました！